

平成23年度第2回平塚市文化振興委員会会議録

【日 時】平成23年11月18日（金）13:30～15:30

【会 場】平塚市民センター 中会議室

【出席者】

委員 8名

石川幹夫委員、片山興大委員、小中山彰委員長、関本耕司委員、牛田洋子委員、中野恵子委員、平野恵美子副委員長、森伸一委員（欠席：岩崎由紀子委員、山川勝久委員）

事務局 3名

文化・交流課長 課長代理 担当1名

傍聴人 なし

配布物

- 1 平成23年度第2回次第
- 2 平成23年度第1回会議録
- 3 資料①平成23年度基金活用事業進捗状況
- 4 資料②オーディション概要
- 5 資料③学校アウトリーチ概要
- 6 資料④平成23年度文化振興に係る会議等進行状況

1. 開会

文化・交流課長

2. 会議録の確認

事務局より説明

質問、意見等 なし

3. 議題

(1) 平成23年度基金活用事業進捗状況について

資料：①平成23年度基金活用事業進捗状況

事務局より説明

- 平成23年度は4種類の事業に文化振興基金の活用計画がある。囲碁文化振興事業、若手音楽アーティストオーディション、学校へのアーティスト派遣、平塚市文化スポーツまちづくり振興財団の既存文化事業である。
- 囲碁に関する事業は、囲碁教室は実施中、特別展示は実施済みである。バスツアーはこの週末に実施する。
- オーディションについては現在文化庁からアドバイザー派遣を受けて8月から詳細をつめており、実施要項や審査方法を検討している。
- アーティスト派遣については、1月に小学校2校での受け入れがきまっており、詳細を調整中である。予算額はそれぞれ表のとおりである。

【意見等】

委員 木谷實九段の殿堂入り記念のパネル展示の会場は中央図書館だったのか。

事務局 中央図書館1階ロビーである。囲碁まつりの時期にあわせて展示していたので、10月末で終了した。

委員 先日行ったときにはもう終わっていて見学できず残念だった。

委員 囲碁まつりの人のにぎわいはどのくらいだったのか。

委員 7,500人くらいである。

委員 平塚でプロ棋士によるタイトル戦やイベントを誘致できたら盛り上がるのではないかと。

事務局 現在も毎年女流棋聖戦第一局は平塚で開催されている。来年度以降、男性のタイトル戦も誘致できるよう検討を始めているところである。

委員 基金300万円のうち100万円については財団の既存事業への充当とあるが、例えば財団が主催する事業の「第九」のようなものに使われているのか。

- 委員 100万円分の特定の事業を実施しているということではない。財団が主催する事業が多数あるので、その全体の予算の一部として活用している状況である。事業のチラシがあるので後で配布する。
- 事務局 平成23年度は平塚市から財団へ2,700万円程度の補助金を支出している。市からの補助は毎年削減の傾向にある。市の財政状況から、当初は300万円全額を充当という考えが財政当局にあったが、文化振興のためにきちんとした用途を寄附者の方にもお示ししたいということから、200万円についてはこのような形で活用することになった。残りの100万円は補助金の一部として活用されることになった。
- 委員 囲碁教室ではプロ棋士が何名くらい携わっているのか。また、受講者の学年はいくつくらいなのか。
- 事務局 土曜日と水曜日にそれぞれ1名ずつプロが指導にあたっている。その他、アマチュアの指導者が2名ずつおり、3名で20名弱を指導する体制である。1名が同時に指導できるのは5、6名と聞いている。小中学生が混在しているが、棋力が一定以上の子どもたちを対象にクラスを編成している。この上級クラスに在籍する生徒が全国大会へ出場しており、他の子どもたちの励みになり、棋力を上げてどんどん後に続くことを願っている。
- 委員 囲碁のまちひらつかという方針をうたっているので、プロを目指す子どもたちが多く出てくるといと思う。
- 委員 平塚駅北口に囲碁のまちひらつか記念塔があるが、そばにはブロンズ像、エレベーターと、統一感のないものが並んでいて雰囲気も何もない。また、平塚駅南口にあるマーメイド像のそばには大きな競輪場の看板が立っており、景観を損ねていて非常に不本意である。
- 事務局 囲碁のまちとうたっているながら、そういった雰囲気づくりがまったく足りていないと感じている。
- 委員長 韓国や中国は囲碁が盛んだが、囲碁による国際交流という方法で活性化するのはどうか。
- 事務局 おっしゃるとおり、韓国、中国は囲碁に大変熱心に取り組んでいる。日本国内にも囲碁が盛んなところもあり、国際・国内交流のきっかけになりうると考えられる。

(2) 平塚市若手音楽アーティストオーディションについて

資料：②オーディション概要

事務局より説明

- 若手音楽家を地域で応援するような事業にするため、審査方法や支援内容についてアドバイザーの助言をうけて詳細を詰めている。
- 部門を設けて実施すること、プロオーケストラ等の協力を得て厳正な審査を行うことを目指している。
- 入賞者を平塚市の登録アーティストとして活動してもらい発表の機会を与えるとともに、プログラムを作る力をつけて様々な公演に対応できるようアートマネジメントを学んでもらいたい。

【意見等】

- 委員長 アドバイザーの方はどのような経緯で選任されたのか。
- 事務局 現在は滋賀の文化財団で事業プロデューサーとなった女性。鳥取で9年間同様の仕事をされていた。アドバイザー派遣をしている文化庁の事務局に、平塚が希望する事業内容を相談し、適任の方を紹介していただいたという経緯である。審査員、審査方法、実施頻度、部門等、具体的な助言をいただいている。
- 委員 若手音楽家を支援する関わりの中に、行政や地域だけでなく、地元の企業も入れていただけるとありがたいと思う。事業の説明をそのように受け取れる表現にしてもらいたい。
- 事務局 今お示ししているオーディションの案はまだ最終段階ではなく、今後より具体的な要綱等が必要になってくると考えている。ありがたい御意見をいただいたので、理想の形になるようぜひ検討していきたい。
- 委員 いずれ音楽だけでなく、演劇やその他様々なジャンルの芸術の支援にも広げていってほしい。

- 事務局 実際に邦楽を部門として実施している他市の例もある。今後の検討事項としたい。
- 委員 そうすると事業名も音楽アーティストに特化すると広がりにくくなってしまわないか。
- 事務局 文化芸術は多岐に渡り、文化振興指針でも広く文化全般について触れているが、伝統芸能をはじめあらゆるものが対象となり得てしまう。事業の手始めとしてはクラシック音楽ということで着手したいと考えている。
- 委員 24年度以降実施となっているが、継続していくのか。
- 事務局 たとえば隔年、1部門か2部門のオーディションを実施して、オーディションのない年は支援のための研修や、演奏の機会としてアウトリーチなどを実施していく案である。
- 委員 平塚で実施した場合、どのくらいニーズがあるのか。
- 事務局 平成13年度に実施した際、100名近い応募があり、部門もピアノ、バイオリン等、器楽でも何名もいた。それ以来10年ほどたっているが、このような事業を実施しておらず、それなりの対象者がいると考えている。
- 委員 平塚市のオーディションで受賞してもそれほどいいことがないということではいけないと思う。ステップアップの足掛かりとして魅力的なものになるようにしていく必要があるだろう。企業協賛なども獲得していくべきだろう。
- 委員長 アートマネジメントを学ぶ機会を与えていくという支援は具体的にどのようなものか。
- 事務局 アドバイサーの方は実際に御自身がアートマネジメントの研修をすることもあと聞いている。座学、実務と方法はいろいろあると思うがまだカリキュラムの詳細まではつめていない。実施にあたってはアドバイザーの方の助言をいただきながら組み立てていく予定である。

(3) 学校アウトリーチについて

資料：③小学校アウトリーチ概要

事務局より説明

- 鑑賞者育成のために有効な公演方法として、教室等の小さな空間で、少人数で、近い距離で演奏に触れてもらうアウトリーチという形態がある。公共ホールの活性化のために、事業提案やコーディネーター派遣を行っている財団があり、アウトリーチを行うプロのアーティストが多数登録している。今回はその財団の登録アーティストに依頼をしてアウトリーチを実施する。
- 平塚市内のみずほ小、金田小の2校で、24年1月下旬にそれぞれ行う。音楽の授業時間を充てて、各校3時限ずつ、バイオリンの演奏公演を行う。みずほ小は全校生徒、金田小は1学年を対象にする。

【意見等】

- 委員 時間はどのくらいの公演か。
- 事務局 1時限が50分くらいだと思う。その中で体験や講義、鑑賞のプログラムを入れていく。
- 委員 この事業にも邦楽を取り入れていけたらよいのではないか。
- 事務局 実際に学校現場からも邦楽の希望の声もあったが、登録アーティストにはなかなか邦楽の方がいない。ニーズがあるようなので今後の課題としていきたい。
- 委員 子どもたちの耳を養うことが重要だと思うので、本物をぜひ聴かせてあげたいと思う。榎本大進の演奏を聴いたことがあるが、音色が違う。プロの中のプロのような人にぜひお願いしたい。ボランティア精神旺盛な音楽家も大勢いるので、車代程度で来てくれる人もいると思う。五島みどりさんもずっとこのように、少人数に演奏を届けるという活動を続けている。
- 事務局 今回は早稲田さんというプロの演奏家の方をお願いする。素晴らしい演奏だと聞いている。超一流の演

奏家さんにお願ひできる御縁があれば、今後ぜひ情報を御提供いただきたい。

委員長 小学生の時にフルオーケストラを生で鑑賞する時間があったが、相当なインパクトがあった。フルオーケストラを聴かせてあげる機会というのもあると素晴らしい。

委員 プロの演奏に感動するという面も確かにあるが、逆に特別支援の学校の生徒たちのパフォーマンスなどは、この子たちが？と思うような、違った意味で感銘をうけるもの。そのような方たちの活動を知ってもらう機会も今後つくれたらよいのではないか。

事務局 ろう学校の「鼓舞子」などは素晴らしい活動をしている。

(4) 平成 24 年度以降の基金活用事業について

事務局より説明

○特にこの議題についての資料は作成していないが、平成 23 年度の基金活用事業を参考に御意見をいただきたいと考えている。プロ棋士に教わる囲碁教室、若手音楽アーティストオーディション、プロの演奏家の小学校派遣については今後継続して実施していきたい事業である。平成 24 年度について、またそれ以降を見据えて、文化振興全般について御意見をいただきたい。

【意見等】

委員長 この基金活用事業についての意見だけでなく、今後の長期的な展望をイメージした文化振興全般についての意見もあげていただきたい。また、新文化センター建設の構想があるが、何年か後に実現するとしたら、それに向けて中・長期的にどのような文化振興を進めていくかについてなど、何か御意見はないか。

事務局 具体的な建設が決定しているわけではないが、新文化センターは実現すれば平塚市の文化振興の核となるものである。中・長期の文化振興という話になると、そういったことも視野に入れて、御意見をいただけたらと考えている。

委員 横浜能楽堂の事業に関わった。隅田川にまつわるストーリーの能なのだが、舞台環境、内容すべてが素晴らしく、これまでに感じたことのない大きな感動を覚えた。いろいろな条件すべてがそろい、貴重な体験ができたと思う。若いアーティストの方に、舞台芸術の素晴らしさを体験してもらうということも必要だと思うので、そのような場としての環境を整えてあげることも大切なことだと思う。能の基本は「地に足がつく」ということ。今ではあらゆることの基本のように言われることば。他にも「初心忘るべからず」「老いの境地」などの奥深いことばも能から生まれている。他の芸事をたしなむ人にもぜひ能を知って舞台芸術のルーツを感じてほしい。世界無形文化遺産として最初に指定されたものが能であり、知る機会が少ないが、実際に鑑賞してもらえたらその素晴らしさを感じていただけたらと思う。

事務局 平塚市でも、身近でそういったものを生で見て、あの何とも言えない空気を感じてもらえたら素晴らしいだろう。

委員 そのような普段鑑賞する機会がないものに触れる機会をつくっていくというの、文化振興では重要かもしれない。見学会のような趣旨のものなど。

委員 以前に市民センターでも能楽はやったことがあった。これまでもまったく機会がないわけではなかった。

委員 平塚にゆかりのある武将のストーリーなど、せっかく地元の歴史を題材にした演目もあるので、ぜひ知ってもらいたいと思う。敷居が高いもの、なじみのないものという考えをなくし、もっと楽しんでもらいたい。

委員 来年度は、ワークショップ型の伝統芸能の事業を計画している。御意見を反映させたい。

委員 新文化センターの構想があるが、その施設だけが文化的なエリアということではないと思う。駅を降り

てからの雰囲気もすべて重要で、それらを作ってほしいと思う。紅谷町の通り沿いにはそのゆかりも不明な彫刻があり、説明も何もない。そういうものが唐突にあるのは良くない。平塚にはいいものがたくさんあるのだから、町全体から文化の香りがするようなまちづくりをぜひ進めてほしい。

委員 彫刻のまちとしてまちづくりをしている場所をおとずれたことがあるが、駅前へ降りるとすぐに彫刻が目に入った。たくさん彫刻が景観に溶け込み、ゴミもなく、町全体が美しかった。平塚にもいろいろなテーマで「～のまち」というのを進めようとしているので、市民も一緒になって実現していけたらよいと思う。

委員 平塚は市政 30 周年等の節目で彫刻をいくつも設置してきた。先ほどの駅前のモニュメントや市内の銅像も、由緒あるものである。市民センター中庭には歌碑もある。市民の皆さんにそういったものを知ってもらうようなことも進めていけたらいいと思っている。

委員長 昨年委員に実施したアンケートには、市内の銅像、歌碑などについても多く意見が出ていたと記憶している。

事務局 市内の資源としていろいろなものが点在しているのは承知している。委員さんのおっしゃるとおり、それぞれが点のように存在しているだけで、市民の皆さんに効果的に御案内できてはいない。歩いて楽しむルートを案内するとか、そういったこともできたらいいと思う。

委員長 中・長期的な展望という話になると、個別の事業というよりもまちづくりという意見が多くなってくる。昨年からもたびたび文化振興の話から、まちづくりに対する意見が活発に出ている。

委員 花菜ガーデンで講演があり、聞きに行ってきた。文化財などのひとつひとつのモノだけでなく、ひとりひとりの市民が、外部からのお客様を迎える誘客のためのホスピタリティーを持つという話だった。笑顔の講習もあり、とても有意義な話を聞くことができた。まちづくりも一緒に、市民ひとりひとりが、例えば先ほどの彫刻の手入れをするなど、身の回りにある文化を大切にすることをすれば、素晴らしいまちづくりにつながるのではないかと思う。

委員長 東海大学には観光学部というのがある。今おっしゃったホスピタリティーというお話はまさにその学部の研究するところである。地元の大学なのでその知恵を借りて、文化振興に活かすことも有効ではないか。

4. その他

資料：④平成 23 年度文化振興に係る会議等進行状況

第 3 回委員会日程について 平成 24 年 3 月 16 日（金） 午後 1 時 30 分から 平塚市民センター

5. 閉会

文化・交流課長

以上